

# 連携医院のご紹介

今回は「よろず相談医」として、専門の循環器に限らず認知症まで幅広く患者さんの診療にあたっておられる井上内科医院の井上忠雄先生です。



井上 忠雄 院長

## 井上内科医院

〒734-0025  
広島市南区宇品神田2-15-3  
電話/082-251-1711  
院長/井上 忠雄  
診療科目/内科・循環器科・胃腸科



### ○開業から今までのことについて教えてください。

23年前に父より継承しました。大学から博多にいたため、周囲の病院や先生の事を知らず、患者さん紹介の方法も分からないなどの苦労もあり、色々な先生と関係を作るのに10年位かかりました。また10年ほど前から在宅医療を始め「認知症サポート医」となり、今では個人だけでなく介護保険施設にも往診しています。

### ○認知症について教えてください。

10年以上前にグループホームで勉強会を始めたことがきっかけで「認知症サポート医」になりました。もし、認知症が疑われる方に受診を勧めるときは「物忘れかもよ」「健康診断で、病院へ行ってみよう」と誘ってみてください。本人の診察をしてみないと、話だけでは分からないですからね。

### ○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

患者さんから聞かれたことについて検査でも薬でも、とにかくわかりやすく説明することです。今は患者さんにあまり馴染みのないジェネリック医薬品の利用について説明することが多いです。

### ○開業医のやりがいは何ですか。

開業してからは患者さんとざっくばらんに話ができて、風通しの良い関係が築けるのがいいですね。勤務医時代とは違い、今は日常生活を同じレベルで、一緒にひざをつき合わせて病気以外にもいろんな事の相談に乗っています。

### ○県病院に一言。

地域から信頼されている県病院に紹介すると患者さんも安心されます。また、夜間の救急患者を受入れてくれるので、とても助かっています。様々な診療科があるので、ほとんどの患者さんを県病院に紹介しています。



井上内科医院外観

### 【取材後記】

とても気さくな先生で色々お話しください、認知症についてのアドバイスは、参考になりました。また待合室に大きな水槽があり、その中で泳ぐ熱帯魚を見ているだけで癒されました。

# もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。  
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

## Contents

- 救急功労者表彰受賞 ●下垂体・脳腫瘍外来 ●嚥下食
- 外科医の独り言(消えた悪性腫瘍) ●連携医院のご紹介(井上内科医院)

# 救急功労者表彰受賞

## 平成27年度 救急功労者表彰式 総務省



表彰を受けた山野上救命救急センター長

当院の山野上救命救急センター長が救急功労者表彰(総務大臣表彰)を受賞しました。広島県メディカルコントロール協議会長、日本DMAT隊員として災害医療に尽力したほか、救急救命士の病院実習等により救急隊員の教育に貢献した功績が認められたものです。

## 県立広島病院からのお知らせ

県病院を利用される方へ  
(外来・見舞い)

### イオン宇品店から無料バスが利用できます

県病院  
イオン宇品店

当院駐車場の混雑緩和のため、イオン宇品店様のご協力により、イオン宇品店の駐車場が利用できます。イオン宇品店からは、当院までの無料送迎バスをご利用下さい。

- ◎平日のみ運行  
(土・日・祝日、12/29～1/3は運休)
- ◎運行時間:午前8時～午後4時



県病院正面玄関送迎バス乗り場



県病院からイオン宇品店の経路

### 10月のがんサロン

開催日 平成27年 **10月21日**(水)  
時間 14:00～15:30  
場所 新東棟2階 ラウンジ  
内容 学習会・交流会  
対象 悪性腫瘍(がん)で通院または入院されている患者さん及びそのご家族  
問合せ先 地域連携センター  
TEL:082-256-3562 (担当:佐々木)

## KBネット

現在の参加医療機関 (9月25日現在)

# 207

機関

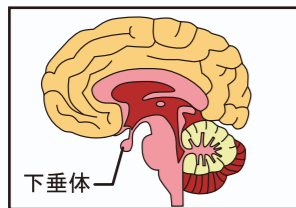
問合せ先 地域連携センター  
電話(082)252-6228(直通)

# 下垂体・脳腫瘍外来

毎週火曜日 午後（完全予約制）

脳腫瘍は年間およそ1万人に1人見つかると言われ、国内では毎年約12,000人がかかる病気です。良性腫瘍が占める割合は半分以上で、脳腫瘍の20%は下垂体にできます。下垂体は脳の下にあり、様々なホルモンを分泌し、全身のホルモンバランスを調節する司令塔です。

下垂体に腫瘍ができるとホルモンバランスが崩れる原因になったり、目が見えなくなったりします。しかし鼻の穴からの手術で大部分の方が治ります。早期発見・早期治療が大切です。経験豊富な医師がいますので是非ご相談下さい。



## 受診・相談の目安

脳ドックで脳腫瘍が疑われた場合や、かかりつけ医から脳腫瘍が疑われた場合には、ご相談、受診下さい。



脳神経外科 主任部長 富永 篤

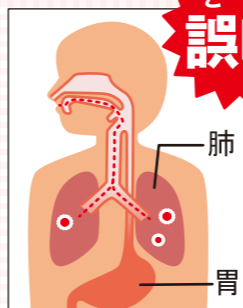


手術中の富永主任部長

# 県病院の 嚥下食 栄養管理科

皆さんは食事中にムせて辛い思いをしたことはありませんか？これは誤って気管に入った食べ物を外に出そうとする防御反射です。しかしその機能が弱くなると、食べ物が気管に多量に入ってしまう、肺炎を引き起こしてしまうことがあります。このような患者さんは安全に食べるために、食事の工夫が必要です。

県病院では様々な段階の食事を用意しています。患者さんに嚥下テストを行い、患者さんの食べる能力に合った食事を提供しています。お粥をゼリー状にしたり、おかずをミキサーにかけたり、とろみをつけたりと、きめ細かな調整をしています。



ごえん 誤嚥

## 主に飲み込みの訓練を目的とした食事 対象 誤嚥の危険性が高い患者さん



## 主に栄養補給を目的とした食事 対象 誤嚥の危険性が低い患者さん・嚥む力が弱い患者さん



# 外科医の 独り言 no.49

## － 消えた悪性腫瘍 －

皆さんは『白い巨塔』という小説をご存じでしょうか？作家山崎豊子さんの原作で映画化もされました。昭和30年代の旧帝国大学医学部が舞台のお話です。その中で教授廻診の場面が何度か出てきます。外科病棟の廊下を教授が先頭に、そしてその後ろを助教授以下外科医師が整然と、そしてぞろぞろと歩いて行く場面です。

昭和58年某月、私は研修医として大学病院の外科に勤務していました。その時担当していた患者さんに10代の男の子がいました。その子は原因不明の腹部腫瘍、すなわち左下腹部にできた赤ん坊の頭ぐらいある“腫瘍”を手術するために入院していました。一般に子供の腹部腫瘍は珍しく、直前のカンファレンスでも様々な議論になりました。そのカンファレンスで主治医の私が外科医師全員を前にプレゼンテーションしたのです。

お腹に触る赤ちゃんの頭ほどの大きな固いしこり、そして腹部レントゲン、当時やっと導入されたCTでも明らかに“腫瘍”として映っていました。そして手術2日前の教授廻診、その男の子の前でつい先ほどのカンファレンスでプレゼンテーションしたことと同じ説明をし、教授もその子のお腹を触りながら「大丈夫だからね、手術が終わったら楽になるからね」と優しく語りかけました。そして私の方を振り向いて「もうやり残した検査や処置はありませんか？」と尋ねられました。「あとは手術の前の日に下剤を飲んでもらって手術の朝に浣腸するだけです」と答えました。

それを聞いてうなずいた教授は「で、板本君、この腫瘍はなんだと思う？」と私に質問されました。その時は自分なりの考えを持っていたにもかかわらず結局手術してみないとわからないので「わかりません」と答えてしまったのです。すると教授の顔色が一瞬にして変わり「患者さんの前でわかりませんはないだろう、君は患者さんの事を真剣に考えていないのだね」と厳しく咎められました。

そして教授は「これはおそらく悪性神経芽腫です」、もちろん患者さんの前では英語で「Neuroblastoma」と言われました。そして教授が部屋を出られた後に患者さんは不安そうな顔をして「先生、今何と言われたんですか？」と聞かれた私は答えに窮して「いやごめん、英語の意味が分からなかった」と情けない返事をしたことを憶えています。

そして手術当日の朝、病室に行くとその男の子は満面の笑顔で「先生、今朝生まれて初めてたくさんウンコが出て、楽になった」と教えてくれました。「それは良かったなあ」と言いながら男の子のお腹を触ると、なんと固い大きな腫瘍がなくなっていたのです。はぁ？なににこれは、腫瘍がウンコだった？と気づく前に、ああこれでこの子は手術しなくて済んだと安堵しました。もちろん手術は中止、そしてその子は翌日無事？退院となりました。

後日わかったことですが、その子はHirschsprung（ヒルシュスプルング）病という直腸の神経の先天性異常のために大腸に便が詰まる病気だったのです。つまり原因は別にして便秘だったのです。それが前日の下剤、手術当日の浣腸で長年溜まっていたウンコが便器に溢れるぐらい出て“腫瘍”が消えたのです。

そして教授は「板本君、君何かしたのか？」と聞かれ大きな声で「はい下剤を処方して浣腸しました」と自信を持って答えたのです。

またウンコの話ですみませんでした。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本 敏行(いたもと としゆき)

## 患者さんへ 紹介状 持参のお願い

初診時に他医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2,690円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診察を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承ください。

## 医療機関の方へ 紹介予約のお願い

患者さん紹介時に地域連携センターを通じての診察予約をお願いします。選定療養費の負担もなく、待ち時間も短く、患者さんへのご負担が少なく済みます。

ご協力をお願いいたします。